



令和2年7月豪雨

自民党女性局次長・厚生関係団体委員会副委員長
参議院議員・薬剤師 本田顕子

残暑厳しい日が続いています。また、昨年12月に中国で発生した新型コロナウイルス感染症により、我が国の医療、経済、生活スタイルが変わり7月に開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックの開催も延期となりました。歓喜の瞬間は来年に持ち越されましたが、その分、今は換気に気を配る日々です。

さて、7月4日、九州南部を中心に豪雨災害が発生し、その後、九州北部、中国地方へと拡大しました。私もちょうど地元熊本県に戻っている時でしたので、熊本県と熊本県薬剤師会の災害対策本部に入り、医療の部分に目を配りました。災害薬事コーディネーターが積極的に貢献されていたことはとても素晴らしい取り組みだと思いました。その後、参議院自民党の視察で人吉市・球磨村に入りましたが、災害医療も多様化してきていることを感じました。

DMAT 隊の活動について触れてみますと、厚生労働省のHPではDMATについて「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義され、医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されるとしています。今回の豪雨で被害が大きかった熊本県球磨村では道路の寸断により、陸の孤島が多数発生しました。負傷者は少ないけれども、全ての所有物が水で流されている状態で通常の医療をいかに繋ぐかが優先となりました。48時間～72時間の命を繋ぐ活動から平時医療もカバーすることが今後想定されるのではないかと私は感じました。



アマビエ

現在のDMATの定義では薬剤師は“業務調整員”の解釈で、必要に応じて適宜チームに入りますが、多様化する活動の中で明確に参加できる仕組みづくりについて政策提案につとめていきたいと思っています。



本田あきこ



メルマガ登録



本田あきこの部屋



@89314honda